

## 「令和7年度地方創生に資する金融機関等の『特徴的な取組事例』」 内閣府特命担当大臣(地方創生担当)表彰の受賞について

株式会社秋田銀行(頭取 芦田 晃輔)は、内閣府が公表する「地方創生に資する金融機関等の『特徴的な取組事例』」に選定され、内閣府特命担当大臣(地方創生担当)表彰を受けましたので、お知らせいたします。

本件は、金融機関等の地方創生に資する主体的な取組みを内閣府が評価し、地方公共団体と連携している事例および先駆性のある事例などを表彰するものです。

当行は、今後も地域課題の解決に向け、地方創生に資する地域脱炭素の取組み支援を強化し、地域経済の発展と社会課題の解決に積極的に取り組んでまいります。

記

### 1 受賞内容

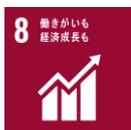
取組テーマ	「官民金連携による地域資源『もみ殻』を活用した地域循環型経済・社会構築の推進」
概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>2022年7月、当行は大潟村が推進する「脱炭素先行地域<sup>(注1)</sup>」の取組みを支援すべく、大潟村および村内企業等とともに地域エネルギー会社・株式会社オーリスを設立しました。</li> <li>大潟村・株式会社オーリスでは、大潟村の地域資源である「もみ殻」をバイオマス活用した「もみ殻バイオマス熱供給事業」の事業化および「もみ殻燻炭<sup>(注2)</sup>」の農業利用に向けた商品化を目指しており、当行は地域エネルギー会社設立にかかる出資のほか、もみ殻バイオマス熱プラントの建設資金および人材派遣等による事業化に向けて包括的な支援を行ってきました。</li> <li>「もみ殻バイオマス熱供給事業」の実現は、化石燃料由来のエネルギーからクリーンエネルギーへの転換により地域の脱炭素化に資するほか、「もみ殻燻炭」は土壌改良剤や育苗培土として活用することで域内の資源循環をはかり、農業の持続可能性を高める効果が期待されます。</li> </ul> <p>※ 取組みの詳細につきましては別紙をご参照ください。</p>

- (注) 1 2050年カーボンニュートラルに向けて、民生部門(家庭部門及び業務その他部門)の電力消費にともなうCO2排出の実質ゼロを実現し、運輸部門や熱利用等も含めてそのほかの温室効果ガス排出削減についても、我が国全体の2030年度目標と整合する削減を地域特性に応じて実現する地域のこと
- 2 燃焼により炭化したもみ殻のこと

### 2 もみ殻バイオマス熱供給事業について

もみ殻を燃焼させることで発生した熱エネルギーを大潟村内の公共施設等へ供給するものです。熱エネルギーは約90℃の熱水として地中に埋設された熱導管(全長約7km)を通じて各施設に届けられ、従来の化石燃料由来のエネルギーを代替していきます。

(以上)



#### SDGs (Sustainable Development Goals)

2015年に国連で採択された持続可能な開発目標であり、2030年までに解決すべき世界的優先課題17目標と目標を達成するための169のターゲットが示されています。

# 官民金連携による地域資源「もみ殻」を活用した地域循環型経済・社会構築の推進

秋田銀行(秋田県)

## 概要

- ・当行は、大潟村および村内企業等と共同で地域エネルギー会社である(株)オーリス(以下、当社)を設立し、日本初となるバイオマス熱供給プラントの建設と地域内への熱供給事業を主導する大潟村を伴走支援している。
- ・当行は、事業計画策定、建設資金の融資、サプライチェーンの確立などに加え、行員を運営管理・財務担当者として派遣するなど、事業の実現と安定稼働を多面的に支援している。
- ・本事業は、地域資源である「もみ殻」等の有効活用や農業負担軽減にも寄与している。本事業を通じて、脱炭素化と循環型農業を実現し、農村地域の新たなモデルケースの確立を目指している。

## 当行の役割

- ・当行は融資支援のほか、持続的な事業運営継続の観点から、事業計画の策定、事業デューデリジェンス支援、契約内容の整理・精査、関係者間の調整等を実施。
- ・本事業の運営支援のため、行員を当社と大潟村それぞれに派遣。

## 現地の様子



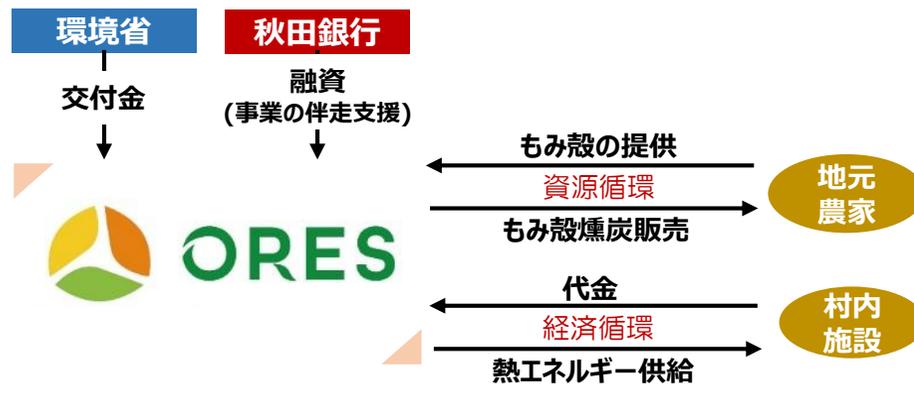
## 事業スキーム

### ①地域エネルギー会社の設立



- 自然エネルギーによる電力および熱を供給する事業体（(株)オーリス）を村内に設立
- 出資額は大潟村、村内企業で過半
- 秋田銀行は出資のみならず、職員の出向等による人材支援も実施

### ②もみ殻を活用したバイオマス熱供給事業



# 具体的な取組内容

## もみ殻を活用したバイオマス熱供給事業



● 環境省交付金と銀行融資による資金調達でもみ殻ボイラーを設置



● 稲作から生まれるもみ殻を燻炭とし育苗培土や土壤改良剤等に活用。かつ、田への炭素固定化により脱炭素効果も期待される。



● 未利用資源であったもみ殻をエネルギー化。国内では前例のない熱導管を巡らせた広範囲のもみ殻熱供給事業

### 地元農家



### 村内施設



## 自然エネルギー100%の村への展開

### 大潟村の基本理念

- 自然と農業と人が共生する村
- 農業と地域経済の好循環
- 安全、安心で快適な生活環境の整備

### 今後の展開

- 太陽光発電と蓄電池による自然エネルギーによる電力供給
- 村内施設の省エネ化、EVの導入



【もみ殻倉庫】



【蓄電池】



【太陽光発電】

- 本事業は、**地元農家提供のもみ殻を「もみ殻ボイラー」で燃焼し、村内施設(ホテル、温浴施設、小中学校等)の暖房・給湯に使う化石燃料を代替、脱炭素化を図るとともに、燃焼後のもみ殻を燻炭として農業に再利用し、地域資源の循環に貢献するもの。**
- 本事業では、**秋田県大潟村の基幹産業である水稻農業で生まれる「もみ殻」をバイオマス資源として活用している。もみ殻の燃焼で発生する熱エネルギーを地域内に供給するほか、燃焼後の副産物である「燻炭」は農地散布により土壤改良や炭素貯留の効果**が期待される。
- 2022年7月、当行と大潟村、村内企業等の**共同出資で地域エネルギー会社オーリス(代表:大潟村長)を設立**。関係者との調整、専門家活用によるリスク分析、計画策定等を経て、2023年6月に、**日本初の「もみ殻バイオマス熱供給事業」プラント建設に着手**。
- **村内出資企業は各専門分野(農業、再エネ、土木建築等)でオーリスを支援し、秋田県立大学准教授の技術協力も受ける**。燻炭は村内向けにリーズナブルな価格で販売することを目指し、土壤改良や育苗土代替に活用、**作業負担軽減により農業人口の高齢化対策にも寄与**することが期待される。
- 現在も官民金連携で、プラント維持管理体制や燻炭販売戦略の策定に取り組む。**当行はサプライチェーン確立を支援し、事業の持続可能性向上と地域脱炭素を通じた農業の付加価値創出を目指す**。

## 経緯・動機

- ・当行では、地域課題の解決を起点とした非金融分野での新事業開発を通じ、地域経済の活性化を目指している。特に脱炭素分野では、カーボンニュートラル実現に貢献すべく、再生可能エネルギー事業を重点分野として推進してきた。
- ・秋田県大潟村は干拓により誕生した農業地域であり、就業人口の約75%が農業に従事する。農地の96%を水稲が占め、米の生産量は全国の市町村中第6位。他方、毎年大量に発生する農業残渣の活用が地域課題であり、特にもみ殻は未利用資源として注目されてきた。
- ・大潟村は当行等とともに、10年ほど前からからもみ殻を燃料とするバイオマス熱供給事業の可能性が議論してきたが、太陽光発電との併用を含む大型開発は体制面や資金面の制約により大潟村単体では実現困難な状況であった。
- ・2022年4月に大潟村が環境省公募の「脱炭素先行地域」の採択を受け、補助金(総額約50億円)の活用が可能となったことから、当行は民間ノウハウ等を活用して本事業を地域脱炭素のモデルケースとして実現すべきと判断し、着手することとなった。

## 実施にあたり工夫した点

- ・当行は、脱炭素先行地域の申請時においても伴走支援を実施。採択後はプラント建設資金等(12億円)の融資支援だけでなく、事業計画の策定、契約内容の精査など多面的支援を実施。実効性ある事業支援のため行員2名を出向者として派遣。
- ・出向者は商用運転開始までは関係者調整から、システム・設備調整に腐心。2025年2月の商用運転開始以降は、日々の運転管理、財務・経理に従事。日々のトラブル対応や改善策立案・実行について社内外の技術担当者と対応し、安定稼働に貢献している。
- ・出向者の派遣は、事業支援のほか、再エネ業務を現場で経験することで同分野の知識・ノウハウを習得し、脱炭素先行地域事業の取組を秋田県内で横展開することを企図している。なお、村内の関係者調整等は大潟支店が担当している。

### 行員の出向

- ・秋田銀行の行員2名が、大潟村およびオーリスへ出向中
- ・出向者を通じて、大潟村、オーリスおよび当行間の連携体制を強化し、事業推進をフォロー

### 融資の実行

- ・2022年7月に、オーリスへ出資。事業構築にかかる多岐にわたる支援を実施
- ・2023年6月に、もみ殻バイオマス熱供給事業に対して融資を実行
- ・2024年2月に、蓄電池併設型の太陽光発電事業に対して融資を実行

### 商業運転開始

- ・2025年2月に、両事業とも商業運転を開始

# 取組の成果

- ・大潟村では、年間約3.8億円が灯油のコストとして域外に流出しているが、本事業によりそのうちの約1億円を内製化することを目指す。農業従事者としては「もみ殻」の廃棄コスト11円/kgの負担軽減が図られるほか、事業主体となるオーリスにおいても、熱エネルギーおよび「燻炭」の販売により、年間約1億円の売上高を見込む。来期以降の最終黒字化に向けた収益化を推進。
- ・地域脱炭素の観点では、大潟村の民生部門における灯油由来のCO<sub>2</sub>排出量の削減目標として、1,825t-CO<sub>2</sub>/年を掲げている。現段階では、目標の約60%に相当する1,080t-CO<sub>2</sub>/年の削減が可能な見通しにあり、熱供給事業の段階的な拡大により目標達成を目指している。本事業で代替した灯油量を算出し、そのCO<sub>2</sub>排出量を削減量としている。
- ・本事業を契機に村内の幅広いステークホルダーが相互補完しながら、長年の地域課題を解決する体制を構築できた。また、灯油代の域外流出抑制と熱エネルギーの地産地消による地域経済の活性化や燻炭散布による土壌改良も期待される。

## ロジックモデル

### インプット

- ・ 大潟村のもみ殻資源
- ・ バイオマス燃焼設備
- ・ 出資・融資・人材支援

### アクティビティ

- ・ もみ殻収集・運搬
- ・ バイオマス燃焼による熱エネルギー供給
- ・ 燻炭製造と散布

### アウトプット

- ・ 地域熱供給開始
- ・ 燻炭の安定供給
- ・ 再エネ電力供給

### 短期アウトカム

- ・ 化石燃料代替
- ・ 再エネ利用拡大
- ・ 土壌改良と農業生産性向上

### 中期アウトカム

- ・ CO<sub>2</sub>排出量削減
- ・ 循環型農業モデル定着
- ・ 地域経済活性化

### 長期アウトカム

- ・ 地域脱炭素社会実現
- ・ 炭素貯留で気候緩和
- ・ 全国展開による波及効果